

報 告

連合の春闘結果集計データにみる 賃上げの実態2019（ポイント）

～賃金データ検討ワーキング・グループ報告～

本報告は、連合総研・賃金データ検討ワーキング・グループ（座長：齋藤潤国際基督教大学教養学部客員教授）において、新たに連合から提供を受けた2019春季生活闘争回答集計のデータ（賃金引き上げ・平均賃金方式のみ）について分析した結果をとりまとめたものである。今回は5回目の公表となる。

本稿は、ポイントのみの紹介となっているので、詳しくは「(公財)連合総合生活開発研究所」のHP (<https://www.rengo-soken.or.jp>) をご覧ください。

【合計の賃上げ率・金額でみた全般的な回答状況】

○2019春闘の回答状況（定昇とベアを合わせた合計の賃上げ率・金額）を組合員数で加重平均した組合員数ベースで見ると、単純集計ベースを上回っている（図表1）。これは、組合員数が多い大規模な企業の賃上げが中小の賃上げよりも高いことを反映している。

図表1 賃上げ回答の平均値・中央値

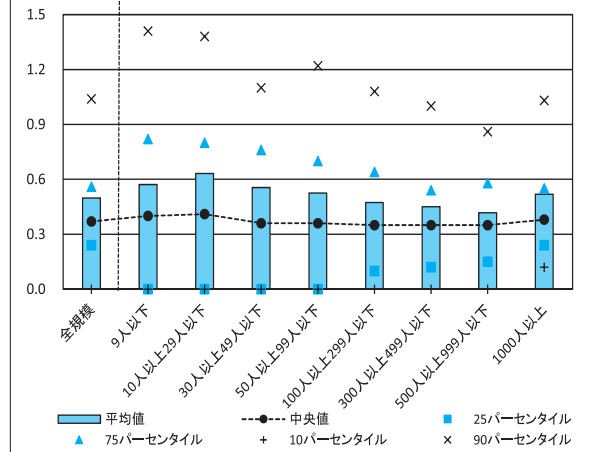
	平均値		中央値	
	組合員数	単純集計	組合員数	単純集計
	合計			
賃上げ率 (%)	2.07	1.91	2.05	1.89
賃上げ金額 (円)	5,997	4,699	5,800	4,700
	定昇			
賃上げ率 (%)	1.60	1.58	1.63	1.61
賃上げ金額 (円)	4,693	4,079	4,708	4,100
	ベア			
賃上げ率 (%)	0.50	0.49	0.37	0.36
賃上げ金額 (円)	1,386	1,194	1,050	1,000

(注) 本報告の分析に際しては、賃上げの要求・回答など組合の記入事項をそのまま用いており、例えば、賃上げの合計と内訳の整合性から欠損値を補うことが可能な場合であっても、あえてそのまま用いている。そのため、分析結果が連合「回答集計結果」と厳密には一致しない。

【規模別にみたベアの賃上げ率の動向】

○2019春闘のベアの賃上げ率においては、規模間の格差は一部を除きみられない（図表2）。75パーセント、90パーセントでは中小企業（組合員数300人未満）の賃上げ率が大型企业（組合員数300人以上）を上回っている（図表2）。

図表2 規模別の賃上げ動向
(ベアの賃上げ率、組合員数ベース)

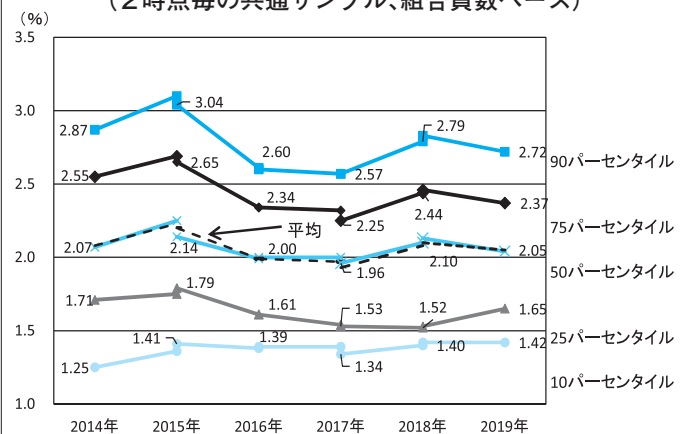


【時系列比較でみた賃上げ率（合計）の分布】

○過去4回の報告書データも利用して、2014春闘以降の各年度の共通サンプルについて合計の賃上げ率の分布をみると（図表3）、2017年にかけて分布のバラツキが小さくなり、その後2018年と2019年を均してみると若干バラツキが拡大した。ただし、10パーセントでみると2017春闘から0.08%ポイント上昇するなど、底上げが図られている。

(注) 6時点の共通サンプルによる比較ではないので、厳密には連続しない点に留意が必要である。

図表3 各パーセントの賃上げ率（合計）の推移
(2時点毎の共通サンプル、組合員数ベース)



(注) 1. パーセントとは、データの分布を小さい数字から大きい数字に並べ、パーセント表示することによって、どこに位置するのかを測定する単位のこと。統計資料の目次を参照のこと。
2. 組合員数ベースは、春闘の回答状況を組合員数で加重平均したものを。